

知床遊覧船沈没事故に見る、企業経営の主体性とコンサルタントの使い方について は  
やぶさ2・549号 2022年05月20日(金)

◆経営者の悩み・お困りごとを、全て解決！

期間限定！ Zoom 無料経営相談：「経営・かかりつけ医」 問合せコーナー！

<https://kazuzohan.clickfunnels.com/copy-of-stm5jwovh8f>

%company%

%free1%

%free2%

%name\_sama%

\*著者：(株)I&C・HosBiz センター 編集長：岩下 一智

◆今回は、トピックスとしてスポットの記事です。

知床遊覧船沈没事故に見る、企業経営の主体性とコンサルタントの使い方について

#### 【目次】

- ・知床遊覧船沈没事故の顛末
- ・事故が起こる背景には何があった
- ・当該コンサル会社の指導とは
- ・本当に欠けていたものとは
- ・コンサル会社とどう向き合うべきか

ゴールデンウィークを次週後に控える、2022年4月の23日に

知床半島西海岸沖で、死者行方不明者26名という悲惨な海難事故が起こってしまいました。

起こってはならない事故が起こってしまったのですから、

せめて同じような事故を越さないように、事故原因の究明を徹底して行い  
対策をしっかり行って再発を起こさないようにしないとイケないと思います。

そこで、事故の技術的な部分は専門家の究明を待つとして

当メルマガでは

事故の背景となる運航会社や経営者の経営姿勢について考察していきたいと思ひます。

■知床遊覧船沈没事故の顛末

まず前提として挙げられるのは、遭難が起こった知床沖は

1994年にひかりごけ事件が起こったり

1959年には操業中の漁船15隻が「羅臼だし」と呼ばれる突風により沈没・転覆し、死者・行方不明あわせて85人という大惨事が起きたこともある海の難所です

当日はゴールデンウィークを翌週に控え、遊覧船出航解禁日の初日でありながら

日経新聞によると、当時の波は2~3メートル、風速は16メートル

天候悪化の予報が出るなどしており

他の遊覧船運航会社は運航を取りやめていました。

当日出航を決行しようとする、被害にあった観光船「KAZU I」の豊田船長に

同業他社の船長が出航前に、「きょうはやめておいたほうがいい」と助言、

運航会社の元甲板員も「気を付けろよ」と声をかけていたが、

豊田船長は「わかった」と言いつつも出航してしまったという。

安全への配慮が足りなかったと思える事実は他にもあり

国土交通省や海上保安庁の調査により

- ・「KAZU I」は昨年6月に座礁を起こし、豊田船長は業務上過失往来危険容疑で書類送検されていた。

- ・「KAZU I」の船首には、たびかさなる事故が原因と思われる数十cmのヒビらしきものが写っている写真が、事故の2か月前に撮られている。

- ・船と通信するために立てられた事務所のアンテナが破損。無線が使用不可能だった。

- ・そのため携帯電話で船と連絡をとっていたが、豊田船長の所有する「au」は航路の大半で電波が届かない状態だった。

- ・去年春、運航会社「知床遊覧船」の従業員がほぼ全員入れ替わった（同社の保有するすべての船の船長含む）

これでは「人災」と疑わざるを得ないですね

## ■事故が起こる背景には何があった

「人災」だという事は早急には断言できませんが、

運航会社の社長である、桂田精一社長は、

海が多少シケていても利益優先で『船を出せ!』と指示していた

という証言があるとネットではささやかれています。

これは裁判での証拠となり得る証言とまでは確定されていませんが

豊田船長のFacebookアカウントが特定されており

そこで

「ブラック企業で右往左往です」

と書き込んでいるという事実があります。

(5/19 現在アカウントは存在しますが全ての投稿が削除されて閲覧できなくなっています)

また前述のように、

数年前に当時の船長全員を含む従業員のほぼ全員が退職するという事態も起こっており

経営がブラックであったことの状況証拠は

証言として元従業員から続々上がっています。

それでは経営がブラックであったことが事実であるとする

そのブラック経営はなぜ行われていたのか

その答えと思われる事実が“ダイヤモンド社書籍オンライン”の以下の記事からわかります。

「なぜ、世界遺産知床の「赤字旅館」はあつというまに黒字になったのか？」

小山 昇：株式会社武蔵野 代表取締役社長

<https://diamond.jp/articles/-/158611>

記事には

『桂田精一社長は有名百貨店で個展を行うほどの元陶芸家で、突然ホテル経営を任され、右も左もわからないド素人。

運よく何もわからないから、(小山氏)にアドバイスされたことは

「はい」「YES」「喜んで」ですぐ実行した。

知床観光船が売り出されたとき、私は、

「値切ってはダメ！ 言い値で買いなさい」

と指導した。

世界遺産のなかにあるホテルが売り出されたときも、

「買いなさい。自然に溶け込む外壁にきなさい」

と(小山氏は)指示した。』

と記載されています。

事故の当事者である「有限会社知床遊覧船」でも  
経営母体の「しれとこ村グループ」のホームページでも  
経営理念や経営方針は記載されておらず、確認はできませんが

新聞報道などから、借金を重ね、旅館や遊覧船会社の買収を繰り返し  
追加融資が受けられない状況になっていたことが分かってきており、

「設備投資にお金を使い、人件費も含め徹底したコストダウン」  
が経営方針の「経営ド素人社長」だったようです。

#### ■当該コンサル会社の指導とは

それではコンサルをしていた側の、株式会社武蔵野 を見てみると

リクルートの(株)武蔵野のページでは、  
経営サポート(コンサルティング)の売上は 2017 年で 23 億円以上  
M&A ビジネスマッチング事業、採用コンサルティング事業  
その他コンサル事業だけで 6 事業展開しており

リサーチ会社のデータでは 75 億円の売上の 60%  
45 億円コンサル売り上げがある立派なコンサル会社で

直接会社に入ってコンサルティングをやるのではなく、会員システムを基に  
セミナーや講演、カバン持ちなどで指導を行うタイプのコンサル会社です。

会員企業数は 750 社と謳っており、かなり多く  
トップの小山昇氏は、会員企業からは圧倒的な支持を集めるカリスマコンサルだったよう  
ですが

会員企業の従業員（元を含む）からはかなり評判が悪く

#### ◆Yahoo!知恵袋

「会社の重役の方々が株式会社武蔵野に洗脳されています。」

『社員数名程度の小さな IT 企業ですが、

このままではただのブラック企業になりかねません、

どうしたらいいのでしょうか?』

[https://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question\\_detail/q14190985369](https://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q14190985369)

という相談や書き込みが多数見られ

素手でトイレ掃除したり、スーパーハッピーとか絶叫して朝礼したり、環境整備という床

這いつくばってホコリ 1 つ残らず掃除したり  
というハードな研修内容や

「環境整備」などで深夜に及び残業が常態化する  
ような指導手法が不支持の原因のようで

会員企業は全て、従業員にストレスを掛け、入れ替えることを推奨する（していた？）  
ブラックな指導をしていることがうかがえます。

また会員企業については

#### ◆ T w i t t e r

『基本的に、武蔵野のコンサルタント会員になるような企業は、  
儲かっていないから藁をも掴む気持ちで  
最後の望みとして、精神安定につながっているような業績が悪い会社が多いわけです。  
となると、「絶対に会員をクビになりたくない！」という気持ちから小山氏の指導を』  
<https://bit.ly/3wqiCzA>

というタイプの企業が多く、構成比率として「2代目社長」が多いと言われています。

また、株式会社武蔵野 は

「指導している 750 社中 450 社が過去最高益、倒産企業ゼロ」  
という触れ込みをウリにしていますが

その経営指導のスタイルから「450 社が過去最高益」だと思われそうですが  
「倒産企業ゼロ」は事実ではないようです。

#### ◆ T w i t t e r

<https://bit.ly/3FZeY2N>

#### ■ 本 当 に 欠 け て い た も の と は

株式会社武蔵野の指導は「経営計画」と「環境整備」の徹底の2本柱です。  
そのことは何にも問題は無く当然だと思います。

悪い書き込みが多く見られる「高額である」という指摘も  
当事者である会員企業が納得しているのであれば問題であるとは思いません。

ただ小山氏には「数字は人格、お金は愛」という言葉があり  
（そのものずばりのタイトルの著書もあります）  
これもそのままでは問題ではないのですが

ご自身や会員企業の行動を見てみるとそれが行き過ぎてしまい  
安全の軽視や法令違反、人権の軽視につながるような  
個人的な倫理、社会的な公共性に著しく劣るような行動を引き起こす

極端な指導が問題だと思います。

先日受講した石田梅岩の石門心学の勉強会で  
「節約と思われる行為には2種類あり  
世界のための節約は『儉約』であり（社会の役に立つ）  
自分の為であるそれは私欲に基づいた『吝嗇（ケチ）』である」

という旨の教えがありました。

このように、根本の行動規範に「社会のため」という観点がないと  
三方善しではないですが、長期的に世間の支持を集めることもできず  
多くの人を巻き込むこともかなわず

いずれ経営もシュリンクしてしまうという観点が経営者には必要なのではないのでしょうか  
そこが 小山氏の指導には欠けていると、結果から言わざるを得ません。

#### ■コンサル会社とどう向き合うべきか

コンサル会社も「業務委託」する外注先です。  
メンター、コーチ、CFO、CSO、CMO、などなど  
会社で必要な役割（機能）を委託、またはノウハウを購入しているわけです。

どのようにコンサルを使って会社を良くしていくのか  
コンサルに何を期待するのか

を明確にして、きちんと管理することが重要です。

特に創業者は、自分の跡継ぎに対して  
経営権や顧客、財産、部下、経営や製造、営業のノウハウを残すだけでなく  
経営者としてどう生きるのか（をどう見つけていけばいいのか）

を残すようにしないと  
他者に依存するだけの後継者を作ってしまう恐れがあります。

今回は以上になります。

理念に基づいた経営について知りたい方は  
下記の書籍が参考になると思います。

「アフターコロナの時代の生き方 理念経営実戦のすすめ」

平本靖夫 著 HosBiz ミロク出版舎

<https://kazuzohan.clickfunnels.com/sp1u35saqy2>

以上、今回の記事はいかがでしたでしょうか？  
お楽しみいただけましたか？

次回からは、

日本の中小企業を元気にする経営者シリーズ 第2弾！

正社員 2 名で税引き前利益 1 億円を実現！

日本的経営を提唱体現する、プラスソフト 竹花利明

の第一回：創業危機の克服、倒産危機から高利益経営へ  
をお送りいたします。

お楽しみにお待ちください！

~~~~~  
経営者の悩み・お困りごとを、全て解決！

期間限定！ Zoom 無料経営相談：「経営・かかりつけ医」 問合せコーナー！

<https://kazuzohan.clickfunnels.com/copy-of-stm5jwovh8f>

~~~~~  
バックナンバーは下記の URL を確認してください。

■ #549号・・・22・05・13(金)・・・バックナンバー

[https://rinenkeieishi.net/mail\\_magazine/hayabusa.php](https://rinenkeieishi.net/mail_magazine/hayabusa.php)

~~~~~ 次回予告 ~~~~~

皆様のコメントを励みにして、航海を持続いたしますので、重ねてご支援ご鞭撻を  
よろしく願います。

◆次号 第551号 22・05・27(金)は、

日本の中小企業を元気にする経営者シリーズ 第2弾！

正社員 2 名で税引き前利益 1 億円を実現！

日本的経営を提唱体現する、プラスソフト 竹花利明

- ◆第一回：創業危機の克服、倒産危機から高利益経営へ
- ◆第二回：経営手法としての竹田式ランチエスター戦略
- ◆第三回：日本人なら日本的経営を実践すべき
- ◆第四回：倒産しない会社の実現、八起会活動について

の第一回：創業危機の克服、倒産危機から高利益経営へ

をお送りいたしますので、ご期待ください。

(予告なく変更する場合がありますので了解ください)

最後までお読みいただき感謝いたします。本当にありがとうございます。

では、また次号で元気にお会いしましょう！

---

◆発信日・・・毎週・金曜日

◆発行責任者・・・Captain 平本 靖夫

◆編集長・・・岩下一智・(株)I&C・HosBiz センター 執行役員  
マーケット・クリエーター(MRC)・・・CST 開発推進責任者

プロフィール

<https://rinenkeieishi.net/corporate/index.html#inoue>

Facebook

<https://www.facebook.com/yasuo.hiramoto>

<https://www.facebook.com/MRCkazu/>

\*「理念営実戦のすすめ」特価(888円税込)で販売

<https://rinenkeieishi.net/contact/form.php>

ご愛読ありがとうございます

著者：(株)I&C・HosBiz センター

Captain 平本 靖夫

プロフィールは

<http://rinenkeieishi.net/corporate/index.html#hiramoto>

◆お問い合わせ・質問は

メールアドレス：[kazu\\_zohan@hosbiz.net](mailto:kazu_zohan@hosbiz.net)

発行責任者：Captain 平本 靖夫、 編集長：岩下 一智 MRC

\*配信解除URL：配信停止をご希望の際は、以下のアドレスをクリックしてください。

%cancelurl%